

# 第2学年 道德科学習指導案



平成29年6月28日(水) 5校時

高原小学校 2年5組 26人

授業者 知念 綾野

共同研究者 新城 桂子 ・ 前田 安加里

平 優美 ・ 大城 琴菜

## 第2学年 道徳科学習指導案

平成29年6月28日(水) 5校時

高原小学校 2年5組 26人

授業者 知念 綾野

共同研究者 新城 桂子

平 優美

前田 安加里

大城 琴葉

1 主題名 優しい心 内容項目：3-(2) 自然愛・動植物愛護

2 資料名 ひみつのぼしよ (出典：文溪堂)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について(価値観)

人間は自然との調和を図りながら暮らし、自然に親しみ、動植物が自然の中でたくましく生きてきた知恵に学んだり、愛護したりしながら、生活をより豊かにし、情操を育ててきた。ところが、過度に自然を利用したことにより、環境破壊が引き起こされた。また、産業の発達や環境の変化により、便利で快適な生活に慣れ、自然との触れ合いの機会が少なくなり、豊かな感性が育まれにくくなってしまっているといわれている。

動植物の愛護においては、人間の都合によって、かわいがったり、世話をしたりするのではなく、動植物の立場に立って、大事に守り育てようとする気持ちが大切である。そのために、身近な動植物に親しみ、優しく接しようとする態度の育成が欠かせない。

#### (2) 児童の実態について(児童観)

##### ①資料に対する児童観

この期の児童は、身近な自然の中で遊んだり、ペットの世話をしたりする中で、動植物に興味をもつようになる。2年生になると、学校での草花や昆虫などの学習を通じ、動植物の飼育・栽培についての理解が深まっている。それとともに動植物をかわいがる気持ちが強くなる一方で、幼児期の自己中心性が残っているため、自分本位に動植物に接したり、自分の都合で世話をしなかったりすることがある。そこで、動植物と触れ合い、それらが活着していることを感じ取らせ、動植物を大切にすることを養いたい。

##### ②児童の実態

本学級の児童は、動植物に興味・関心を持っており、これまでに虫を飼育したり、花や野菜を育てたりする経験をしてきている。また、身近な生き物にすぐ触れてみたり、きれいな花を見て摘んでみたり、実や種を集めたりしている場面に出会うことも多い。しかし、動植物を大切にしようとする心や態度よりも、一時的の気持ちで飼ったり育てたりすることも多く、継続して世話をする児童はほとんどいない。そのため、動植物に優しい心で接することの大切さを理解しているとは言いがたい。そこで、これまでの自分の動植物との接し方をしっかりと振り返らせ、動植物の立場に立って大切に世話をする心を育てていきたい。

#### (3) 資料について

主人公けんじが「せみを捕らずに帰る」を決断するまでの心の変化をとらえ、動植物を大切にすることについて児童の考えを深めさせ、実践へとつなげていきたい。

展開前段では、せみをたくさん捕ろうと張り切って外に出るけんじに共感させ、男の子の話聞いた後のけんじの気持ちの変化を追求させる。中心発問では、けんじの決断に至る考えを多様に考えさせ、展開後段では、望ましい動植物との接し方について交流させ、実践へとつなげるようにする。けんじが自然に親しむ態度や、動植物に対する接し方など、心の変化に注目させ、資料を範例的に活用することによってねらいに迫りたい。

また、終末では、身近な動植物について新聞記事を通して紹介することで、動植物のもつ不思議さ、生命の力、共に生きていることの愛おしさなどを感じることによって、大事に守り育てようとする気持ちを育てていきたい。

#### 4 研究主題との関連

本校では、「自分の思いや考えを伝え合える児童の育成～NIEを取り入れた豊かな言語活動を通して～」をテーマに、日常的に新聞を活用した学習を取り入れ、「豊かな言語活動」を仕組むことにより自分の思いや考えを伝え合える児童の育成を目指し、研究を進めている。

##### (1) 言語活動を充実させる指導（低学年）

児童が言語を基に対象に関する概念を構築していくためには、体験したことを整理して、それを言葉で表すなどの言語活動が必要であり、児童の発達の段階に応じた指導を充実していく。

- ・主語と述語を明確にして表現する。
- ・比較の視点を明確にして表現する。
- ・判断と理由の関係を明確にして表現する。
- ・時系列で表現できる。
- ・互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。
- ・書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。
- ・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。

##### (2) 道徳における「豊かな言語活動」

（「第3章 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の3）  
(4)自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること。

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤であり、道徳の時間においても、その言葉を生かした教育を充実させていく。

###### ①道徳の時間における言葉

道徳の時間の学習では、中心的な資料が生かされ、児童の体験や資料に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習活動の中心となる。道徳の時間は、資料や体験などから感じたこと、考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論・議論などにより意見の異なる人の考えに接し、協同的に議論したり、意見をまとめたりする。これらの中で、言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

###### ②自分の考えを基に表現する機会の充実

話し合いを深めるためには、児童それぞれに自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア.児童に自分の考えをもたせるために、児童一人一人が資料の内容をつかみ、自分の考えをもつことができるようにする。

イ.自分の考えを基に書いたり話し合ったりするために、日ごろから何でも言い合え、何でも認め合える学級の雰囲気をつくるとともに、教師が受容的な姿勢をもつことが大切。また、話し合いとともに、書く活動を通して考えたり、自分自身のことを思い出したりしながら考えを整理する。

### (3) 道徳と新聞

学習指導要領・解説書における「新聞」に関する記述は、以下の通りである。

- ・道徳の時間に生かす指導方法の工夫（7）説話の工夫
- ・魅力的な教材の開発や活用（2）教材の開発と活用の創意工夫

本時では、新聞を「説話の工夫」として活用する。動植物の写真と見出しをコラージュした掲示物を通して、動植物を幅広くとらえることで、動植物に親しみをもち、優しい心で接する態度を養っていききたい。

## 5 本時の指導

### (1) ねらい

○身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接しようとする態度を養う。

### (2) 本時の工夫点

場面	工夫点（手立て，方法）	期待する児童の姿や効果
主人公の気持ちの変化を考える 場面	・各場面で主人公の気持ちを視覚化する。	・主人公の心の変化のきっかけを捉えることで、生き物に対する考えの変化に気付くことができる。
自分の身の回りにいる 「生き物」の記事を紹介する 場面	・沖縄の自然や動物に関する記事の写真をたくさん紹介する。	・自分の身の回りにある色んな生き物を通して、動物や植物を大切にしようとする気持ちを高める。

### (3) 展開

過程	学習活動と発問（「J」）	指導上の工夫・留意点
導入 5分	1. 生き物の世話をした経験と、そのときの気持ちを発表する。 「今まで、どんな生き物の世話をしたことがあるか。」 ・犬を飼っている。かわいいよ。 ・ザリガニを飼っていけど死んじゃったよ。 ・アサガオを育てたよ。毎日水やりががんばったよ。	・生き物の世話をして楽しかったこと、大変だったことを発表させ、ねらいとする価値への方向付けをする。 ・安心して語り合えるような場をつくる。
展開 前 段 2 7 分	2. 「ひみつのぼしよ」を読んで話し合う。 ① 『「せみどりにいってくる。」と言って、外へ飛び出したときのけんじは、どんな気持ちだったでしょうか。」 ・楽しみにしていた、せみ捕りができる。 ・たくさんのせみを捕りたい。 ② 「捕ったせみを逃がすという男の子の話を聞いて、けんじはどう思ったでしょうか。」 ・どうして逃がすのだろう。もったいないな。 ・逃がすなら一匹くれないかな。	・夏休みに、おばあさんの家に遊びに行くという状況を押さえて、けんじがせみ捕りを楽しみにしていたことを想像させ、張り切って外に飛び出した、けんじの気持ちをとらえさせる。 ・男の子の意外な言葉に驚き、迷いつつも、せみを大事にしようとする気持ちが、けんじの心に芽生えていることに気付かせる。 ◎ 「せみだって、せいいっぱい生きてるんだから。」という男の子の言葉をとらえさせる。

<p>展 開 前 段</p> <p>2 7 分</p>	<p>③「たくさんを虫を眺めて、けんじは虫を『捕る』『捕らない』の、どの気持ちになったのかな。」</p> <p>『捕る』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一匹だけは大丈夫だから捕りたい。</li> </ul> <p>『捕らない』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虫たちはここで一生懸命に生きている。</li> <li>・このままにしておいたほうがいいのか。</li> </ul> <p>④「けんじは、どう考えて『ぼく、もってかえらないことにした。』と言ったのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子の言うことが分かった。</li> <li>・虫のためだ。</li> <li>・自然を大事にしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中での虫たちの生き生きした様子に感動し、男の子に言われたことの意味が分かりかけてきているけんじの考えに気付かせる。</li> <li>・自然や動植物に優しく接するようにしようと思つたけんじに共感させ、けんじが気付いたこと、考えたことを話し合わせる。</li> </ul>
<p>展 開 後 段</p> <p>8 分</p>	<p>3. 生き物の記事(写真)を紹介する。</p> <p>「みんなの住む沖縄にもすてきな生き物がいるんだよ。紹介するね。」</p> <p>◎動物の写真と植物の写真</p> <p>4. これまでの自分を振り返り、自然や動植物に接するときの心構えを考える。</p> <p>「動物や植物を大切にするためには、あなたは、どんなことをしてあげたいですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで育てる。</li> <li>・逃がしてあげる。</li> <li>・動物の気持ちを考える。</li> </ul> <p>5. 発表する。</p> <p>「動物や植物にしてあげたいことを教えてください。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身の回りにある色々な生き物を通して、動物や植物を大切にしようとする気持ちを高める。</li> <li>・生き物の気持ちから自分の具体的な行動について考える事ができる。</li> </ul> <p>【評】動物や植物のことを考えて、大切にしようとする気持ちを高めることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの考えを発表させる。</li> </ul>
<p>ま と め</p> <p>5 分</p>	<p>6. 教師の説話を聞く</p> <p>「生き物に優しくしたお話が新聞に載っていたので紹介します。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘラサギの記事を紹介する。</li> </ul>

#### (4) 評価

○動物や植物のことを考えて、大切にしようとする気持ちを高めることができたか。